

巻 頭 言

言語文化研究所は留学生に対する日本語教育、言語と文化に関する諸外国との学術交流などの面で重要な仕事をしてきたが、文学部における留学生関係の機構整備にともなって、昨年度、留学生に対する日本語教育の仕事は同研究室に委ね、面目を一新した組織となった。

言語文化研究所規程には「世界の言語と文化に関する研究」と「その教育の振興と普及を図る」という目的が掲げられている。国際交流と直接に関わる任務が課せられているのである。従来は留学生教育に直接の関わりを持っていたため、まずこれを充実させることに精力を傾注せざるをえなかったのだが、昨年度からはより広い視野のもとに「研究」と「教育」をとらえることができるようになったと言えよう。

本年度は、研究面では研究部所管のもと、研究員制度による学術研究、本紀要による研究成果の発表などがあり、教育面では研修部所管のもと、夏期公開講座、夜間の語学講座、留学生の発表も含んだ異文化体験講演会を開催し、一般市民対象の事業にも大きな成果を得ている。

しかし、さきに掲げた大目標に照らしてみれば、これらはまだ限られた範囲での充実と言わねばなるまい。我々のめざすべきものは、諸外国の研究者・研究所との交流の中で研究を進展させることであり、そのような眼から日本の言語・文化を見直し、教育に反映させて行くことであろう。将来期待される言語・文化関係の大学院の基礎組織としても本研究所は発展して行かなくてはならない。大方のご支援をお願いする次第である。

1996年2月

言語文化研究所
所長 田口和夫